

エゾミドリシジミ *Favonius jezoensis* (Matsumura)

【選定理由】

愛知県では、1955年に豊田市（旧稲武町黒田ダム）で初めて記録された。その後、豊田市東部や北設楽郡各所での散発的な採集記録がある。1回で採集される越冬卵、成虫ともいずれの場所においても少ない。

【形態】

前翅長 21mm 前後。♂は表面の大部分が金緑色であり後翅表外縁の黒帯は幅広く一定の太さを有する。尾状突起は、近似種の中では太く短い。♀は表面に全く金緑色鱗はない。近似種のヒロオビミドリシジミ、ジョウザンミドリシジミ（共に愛知県未記録）ならびにハヤシミドリシジミ、オオミドリシジミによく似ており識別は難しい。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市（旧稲武町、1955年成虫採集）と豊根村（旧豊根村、1988年、1995年越冬卵採集）の3例のみの記録がある。それ以降しばらく公式記録はなかったが、2018年に記録されるとともに、少ないながら継続して生息が確認されている。

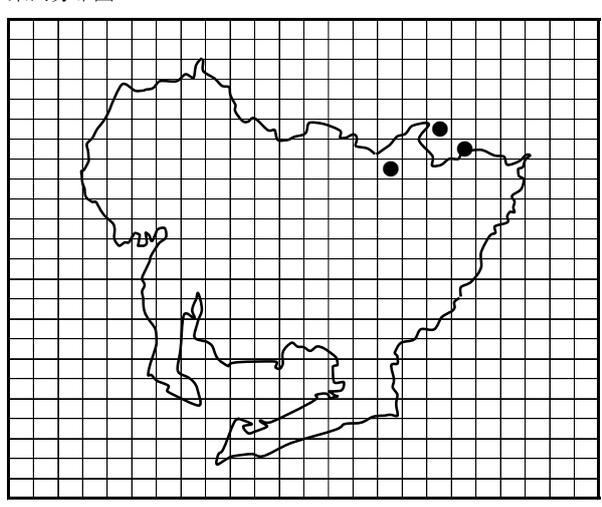
【国内の分布】

国後島、北海道、本州、四国、九州に分布する。北海道および本州北・中部の山地にはやや広く分布するが、本州西南部の暖地では山地のみに発見される。

【世界の分布】

サハリンにも分布する。日本列島ならびにサハリン、国後島を含めた地域の特産種である（小岩屋, 2007）。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

主にミズナラやコナラの生える山地の落葉広葉樹林に生息し、北海道では平地にも生息する。本州北・中部の産地にはやや広く分布するが、本州西南部や四国、九州では山地性の傾向が強まる。♂の活動時間帯は主に午後で、12時を過ぎると活動を開始し、15～17時にピークを迎え夕暮れまで活動は続く（江田, 未発表）。溪流や林道に面した枝先で占有行動をとり、他の♂を追尾した後はもとの位置に戻る。卍巴飛翔の頻度は近似種に比べ高い。クリの花などで吸蜜し、♂は吸水もする。卵で越冬する。卵はミズナラやコナラなどの樹幹・太枝上の亀裂部や褶曲部・枝の分岐部などに産卵されるので見つけるのはかなり困難である。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県での公式記録は極めて少ないが、豊田市東部、豊根村などに記録があるほか、未発表の記録を含めると豊田市、北設楽郡（豊根村、設楽町、旧津具村）一帯で少ないながら継続的に採集されていることなどから、少ないながらも安定した状況で棲息していると考えられる。年1回の発生。6月末～7月に出現し、ミズナラを主とした落葉広葉樹林に生息する。生息環境で競合する近縁種ジョウザンミドリシジミの生息しない産地では、越冬芽に産卵されることが知られている。

【保全上の留意点】

現段階では、環境の大きな変化は見られない。

【引用文献】

小岩屋 敏, 2007. エゾミドリシジミ. 世界のゼフィルス大図鑑解説編: 274-275. むし社, 東京.

【関連文献】

大曾根 剛, 2005. 岐阜県恵那山系のエゾミドリシジミの記録. 佳香蝶, 57 (223): 54.
鈴木哲彦ほか, 1988. 愛知県のミドリシジミ類—分布と生息環境—. 佳香蝶, 40 (153): 5-14.
松原 旭, 2018. 愛知県のエゾミドリシジミについて. 月刊むし, 570: 29-30.

(2009年版を一部修正)